

新春対談



日本では、少子化による人口減や超高齢社会を迎え、右肩上りの社会で構築されたシステムやインフラなどの維持、そして地域の活性化などが多くの自治体で課題になっている。先を見据えたかじ取りが必要になっています。

現代の世の中や行政が抱える問題などについて、西国三十三所第二十九番札所の松尾寺名誉住職の松尾心空さんと対談しました。



行政に求められるもの

市長 2011年から市長の職に就き、市民の皆さんが暮らしやすいようにするには、行政が何でもしてあげることが良いことなのか、自分でしてもらおう方が長い目で見たら良いのかと考えることがあります。例えば、脳梗塞で手が不自由になった人に食べさせてあげるのか、時間がかかっても自分で食べてもらうのか。私は時間がかかっても自分で食べた方がいいと思いますが、多くの人は不自由だからと手伝おうとします。何でもやっってしまうと、克服しようとする気持ちが薄

舞鶴市長 多々見良三

～これからの行政サービスとは～



松尾寺…真言宗醍醐派の寺。国宝や重要文化財の絵画・彫刻を多数所蔵。毎年5月8日に催される「仏舞」は有名。

れて機能そのものが落ちてしまう。行政にしても、どこまでやるのがいいのかと悩みます。

住職 自立心を失つと決して幸せではありません。「貧しさのくさくさ味」という言い方をしていますが、少し足りないのが満足を生む。慣れというのは恐ろしいもので、お供えに1升の米を持ってきてもらうと、かつて食べ物が無かった頃を思い出します。今は1升の米を軽く考えますが、その頃は極端にいうと1粒1粒がダイヤでした。それが今は、余ったからといって平気で食べ物捨ててる。物に対する感謝を忘れると、いくら与えても満足は絶対ありません。

市長 行政サービスがこれからどうあるべきか。やっ当然、もつといると言われる世の中で、どういう環境をつくれればいいのか。

住職 行政が「精神的こやしを与える」ことは難しいでしょうね。

西国 29 番札所 松尾寺 名誉住職 松尾心空

松尾心空さんプロフィール
昭和3年生まれ、91歳。大阪府堺市出身。京都大学文学部哲学科卒。1955（昭和30）年から青葉山松尾寺住職を2008（平成18）年まで務め、現在は名誉住職。60歳から徒歩巡礼を始め、西国札所を5周、四国遍路を1周、その他で7,000キロを歩む。

市長 多くの人は何でも行政頼みではダメだと思ってくれるのですが、それを否定する人は少なくても影響力があります。説明しても理解してもらえないのが難しいですね。

物質的に豊かな現代に大切な「心の豊かさ」

住職 一番大事なものは精神を鍛えることですが、行政が関与する面は限られています。正体のつかめない「精神」を肥沃なものにするのは難しいことです。

市長 それは美感しています。物質的に豊かな現代にこそ大切な「心の豊かさ」。昨今は、自分の思うとおりにならなかったら人を傷付けたり、親の中には子どもを思う気持ちが薄くて、自分本位で子どもを大切にしない。子どもの虐待の増加など親子関係が難しくなっている。

住職 昔、恩赦の問題を書いた新聞のコラムに「番心をえぐられたのは、きこりの親が、わが子がひもじくて苦しんでいるのを見かねて殺した事件で、生涯忘れられない」というものがありました。そういう貧しさの極みと思われている大きな落差の中で、我々はどこかに位置してい

るわけですが、少なくとも「食べられる」ということに感謝を感じないと、心は貧しくなるばかりです。

市長 小さい時から不自由せずに育つことは、ある意味不幸かもしれないですね。私たちの世代は「次はカラーテレビやクーラー、家を買いたい」という目標があつて働いて、その中で喜びを感じました。今は何をしても若者は将来、夢があるのかと思うと分かります。

住職 基本的にはハングリーさがないと発展という事は生まれません。

市長 山も苦労して登るから景色に感動するのであつて、ヘリコプターで頂上ま

で連れて行ってもらったら感動も半減すると思います。住民の皆さんが「このまちはいいまちだな」「このまちに住み続けたいな」と思つたら、行政はどう動くべきなのか。

今の若者は華やかな都会に憧れている人が多い。地元は買物する場所がないとか遊ぶ所がないとか言うけれど、そんなところに人の幸せや目標があるんじゃないかと思つています。

住職 都会にいても決して「花の都」ではないですからね。

市長 お金があつて家族も幸せで全部よくても人間は不満というものが出てきます。

住職 家庭に一番の幸せを感じるようになってもらえばいいんですけど、脚本家の倉本聰さんが「貧幸」と言う言葉を使っています。貧乏を礼賛するわけではないですが、幸せを感じる心が大切だと。一定の生活が保障されたら、豊かな人間関係が最高の抛り所で、心が豊かなことが一番の宝です。

市長 心の修行ということはできるのだろつかつと。小さい頃に感謝の気持ちなどを教えられなかった人が、自分に都合のいいことばかりを主張し始めると世の中おかしくなるんじゃないかと心配しています。

住職 修行では、顔も映るような薄いおかげで飢えを癒します。たらくく食べられることがどんなにありがたいことかを身をもって知るといふ点では、現在でも修行はそれだけの意味を持っています。何でもあつて感謝しろと言つても経験していない人には難しいと思います。その点では、ポイースカウトなどは団体生